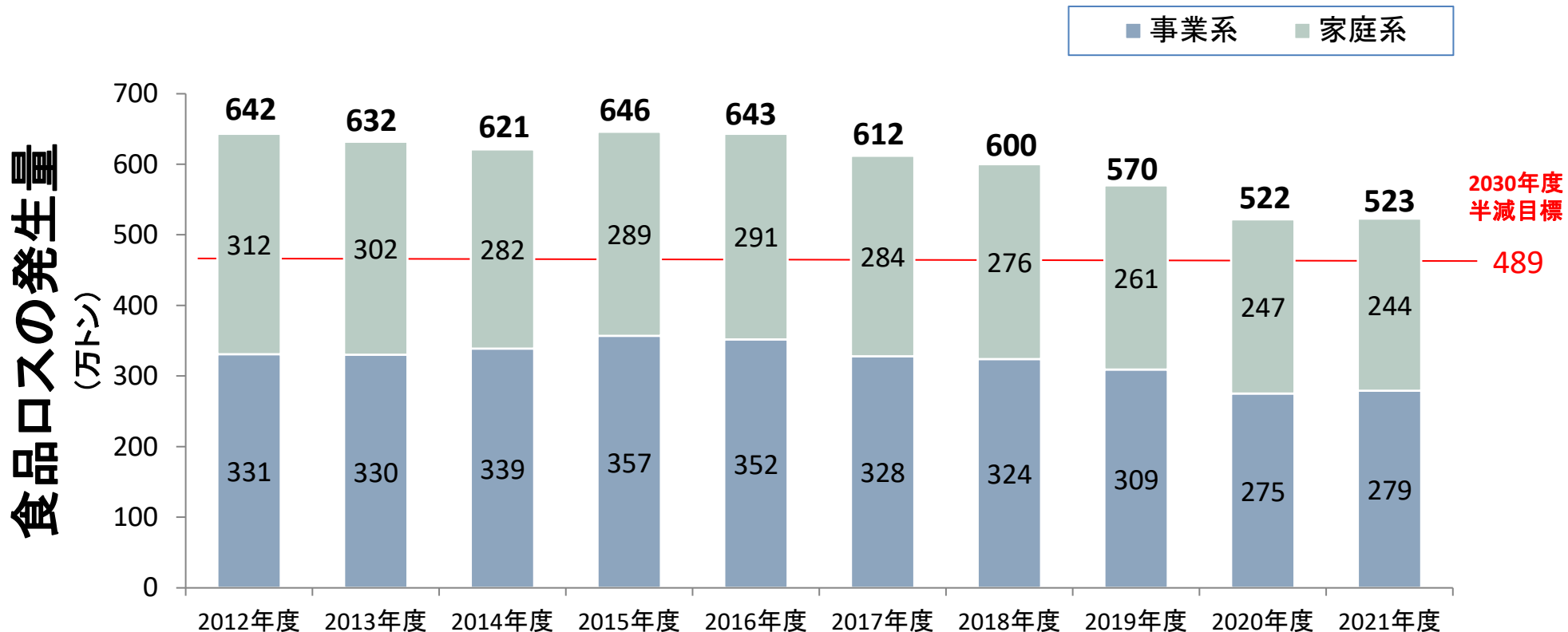


我が国の食品ロスの発生量の推移

- ✓ 平成24年度より、食品ロスの発生量の詳細な推計を実施
- ✓ 令和3年度は約523万トンと、前年度と同水準
- ✓ 内訳は、事業系が約4万トン（約1.5%）増加、家庭系が約3万トン（約1.2%）減少
- ✓ 2030年度半減目標の達成に向け、中長期的な推移を注視することが必要

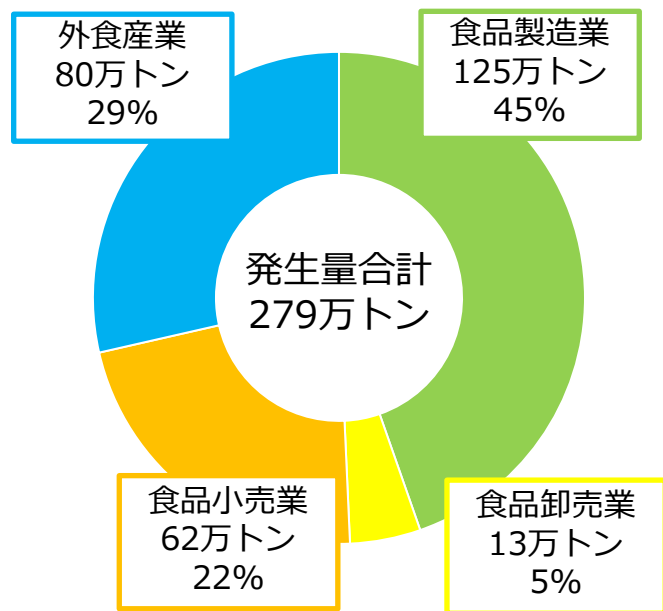


※端数処理により合計と内訳の計が一致しないことがあります。

発生要因の内訳

- 我が国の**食品ロスは523万トン** ※農林水産省・環境省「令和3年度推計」
- 食品ロスのうち**事業系は279万トン**、**家庭系は244万トン**であり、**食品ロス削減には、事業者、家庭双方の取組が必要**。

事業系食品ロス（可食部）の業種別内訳



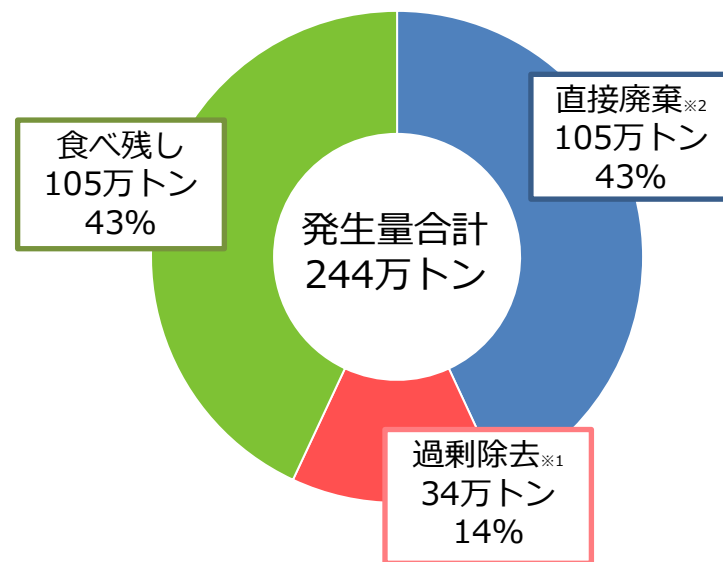
製造・卸・小売事業者

○製造・流通・調理の過程で発生する**規格外品**、**返品**、**売れ残り**などが食品ロスになる

外食事業者

○**作り過ぎ**、**食べ残り**などが食品ロスになる

家庭系食品ロスの内訳



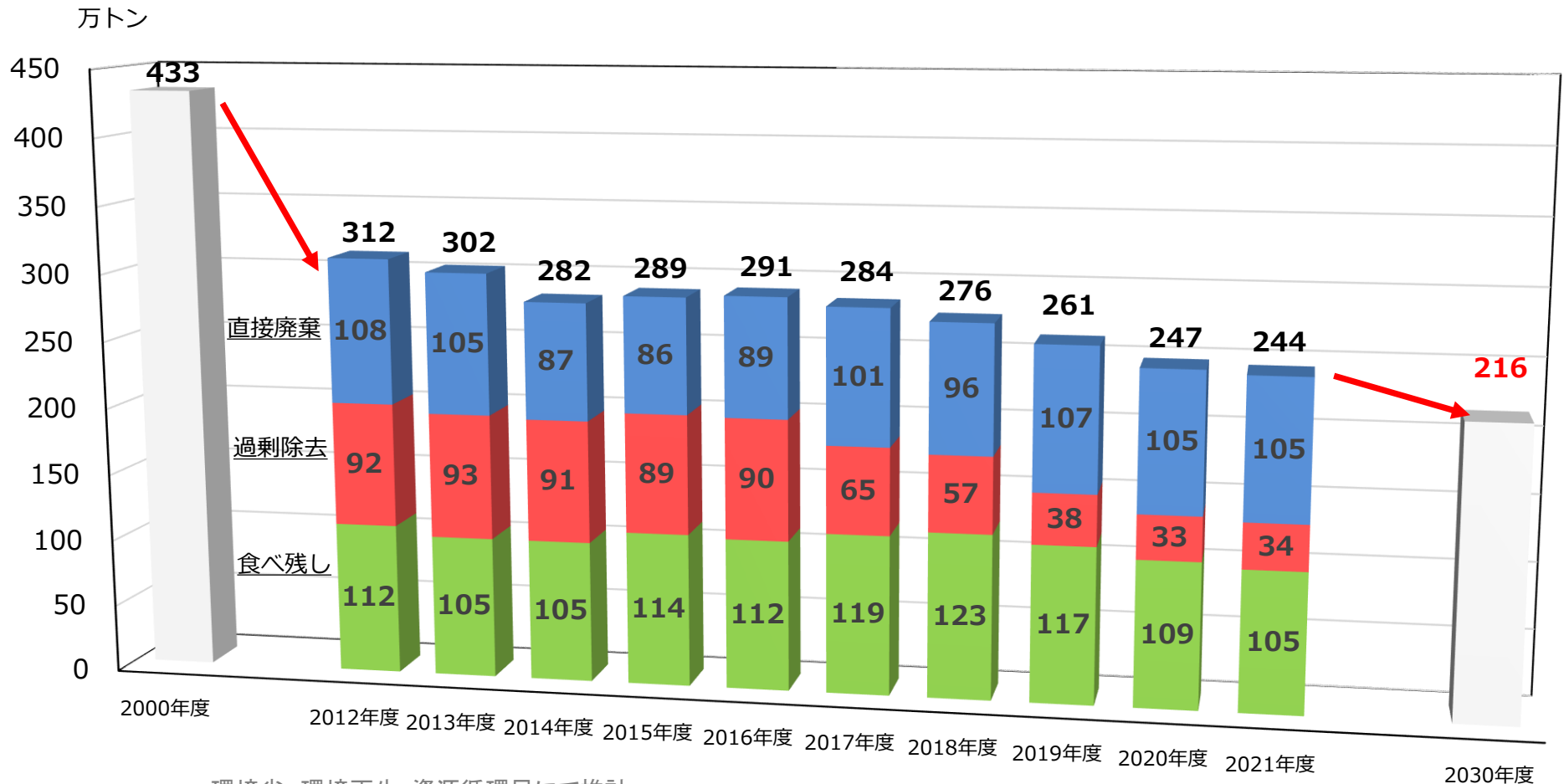
※1：野菜の皮を厚くむき過ぎるなど、食べられる部分が捨てられている
※2：未開封の食品が食べずに捨てられている

家庭系食品ロス量の削減目標と推移

【目標】2000年度(433万トン)比で、2030年度までに半減させる(216万トン)

2012年度以降、全体では減少傾向

近年は過剰除去、食べ残しが減少している一方、直接廃棄は横ばい

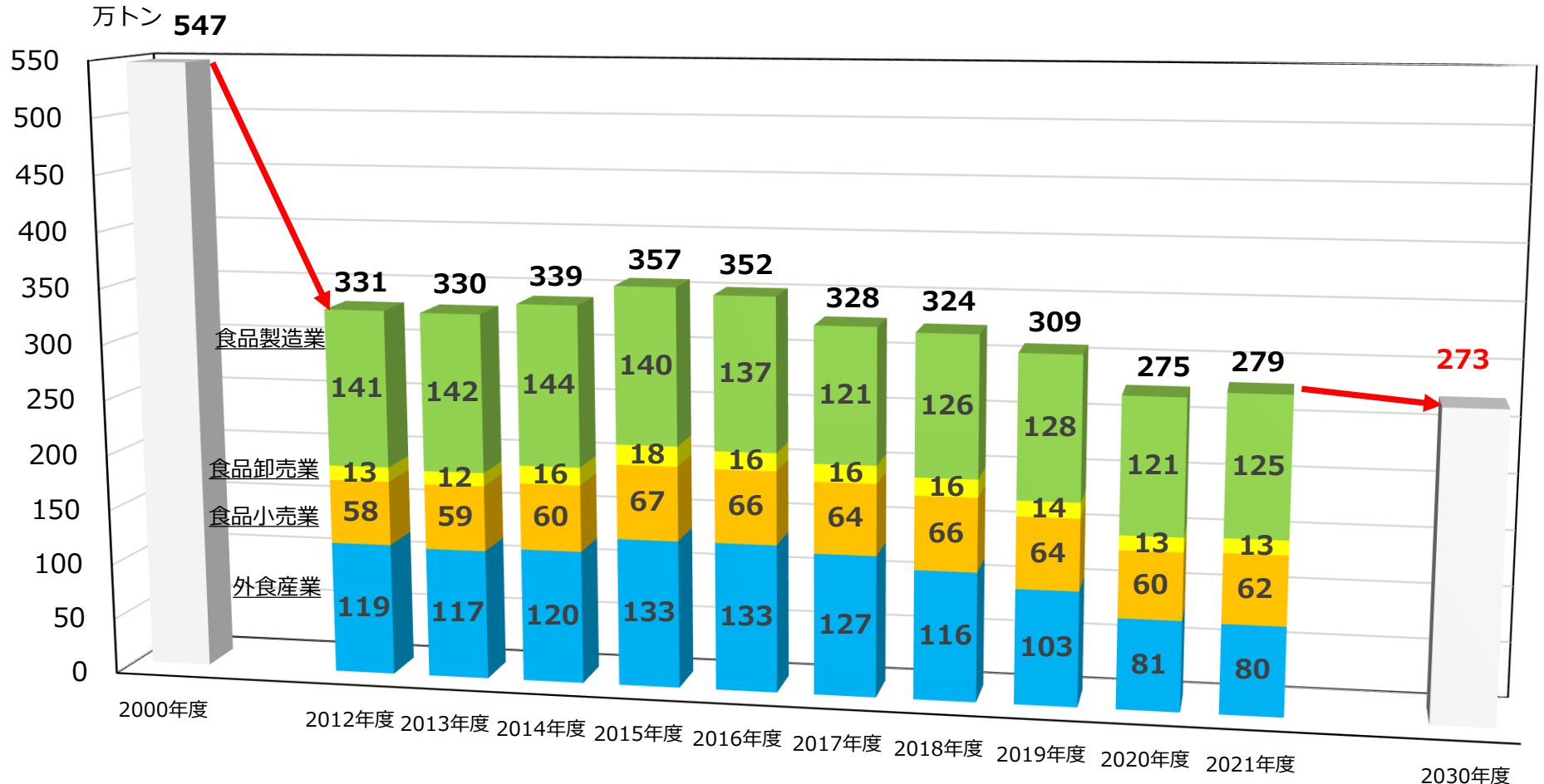


事業系食品ロス量の削減目標と推移

【目標】2000年度(547万トン)比で、2030年度までに半減させる(273万トン)

2012年度以降、全体では減少傾向

近年は食品卸売業、外食産業は減少している一方、食品製造業、食品小売業は横ばい



農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部にて推計